

# 長期欠席・不登校対策のススメ 14号

令和6年2月発行 岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

## 心の居場所推進プロジェクト、長期欠席・不登校対策システム化推進事業 実践事例

### ○子どもに寄り添う。

新見市立新見第一中学校では、自立応援室「ソリューションルーム」を利用している生徒が個々の「悩み」に寄り添った話し合い活動を行っています。これまでに、以下のテーマで話し合ったそうです。



- ・「人との距離感のつかみ方について」
- ・「自分の考えや思いの伝え方について」
- ・「友達の誘いを上手に断る方法について」
- ・「人伝えに自分の悪口を聞いてしまったときの対処方法について」

テーマを事前に決めたり、定期的に行ったりしているわけではなく、生徒が「みんなにどうすればいいのか聞きたい」、「みんながどうしているのか知りたい」と思ったタイミングで話し合いが始まります。もちろん、話し合いに参加するかどうかは自由。参加していなかった生徒が、途中から話題に入ってきて自分の意見を伝えたり、アドバイスをしたり、聞いているだけの生徒も大きく頷いたり、それぞれがそれぞれのかたちで話し合いに参加しています。

話し合い後、悩みを相談した生徒は自分なりの答えを見つけて実践できるようになり、また、話し合いに参加した生徒は、もしかしたら自分の行動が相手を悩ませていたかもしれないと気づき、行動を見直すきっかけとなり実際の行動につながった例もあります。

これまで話し合ってきた上記のようなテーマは、どれも大人社会にも通じるテーマです。これら悩みを抱えている子どもたちを、「勉強」や「学校行事」の話題だけで、学校にひきつけることは難しいでしょう。不登校の子どもたちが、もしも同じような悩みを抱えているのだとしたら、ネットやゲームへの依存も、今すぐに「相談したい」、「話を聞いてほしい」、「誰かとつながりたい」といった思いの表れなのかもしれません。



まずは、子どもは子どもなりに悩んでいる。しかも、大人でも答えが出せないものにまど悩んでいることだってあるかもしれないということを心にとめて、子どもたちに寄り添い、一緒に考えていくという姿勢が求められています。

考えてみましょう あなたはどのようにしていますか？また、どのように子どもたちに伝えますか？



- ・「人との距離感のつかみ方」
- ・「自分の思いや考えの伝え方」
- ・「友達からの誘いを上手に断る方法」
- ・「人伝えに自分の悪口を聞いてしまったときの対処方法」

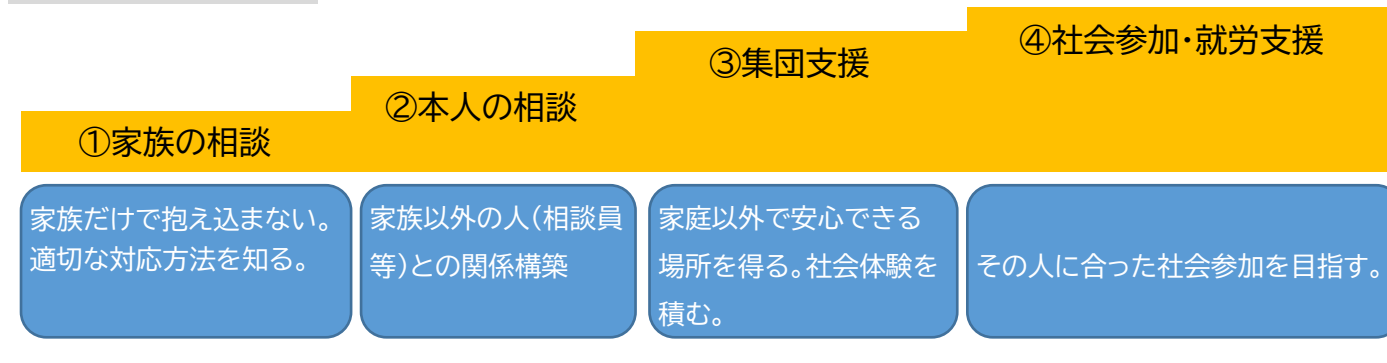


## ◎ひきこもりの支援から学ぶ不登校の支援

岡山県青少年総合相談センターの事例研修会で、岡山県精神保健福祉センター(岡山県ひきこもり地域支援センター)の方から取組紹介していただいた内容が、不登校支援にもつながると感じられたので紹介します。 ※以下の資料は事例研修会の資料から作成

ひきこもりとは、「様々な要因の結果として社会参加（就学、就労、家庭外での交遊等）を回避し、原則的に6カ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念」

## ひきこもり支援の流れ



不登校支援においても、**家族との協力体制は不可欠**です。保護者の不安を取り除くことで、子どもの状態が安定するケースもあります。学校を安心・安全な場所として認識してもらうためにも、**家族や本人との良好な人間関係づくり**が大切です。

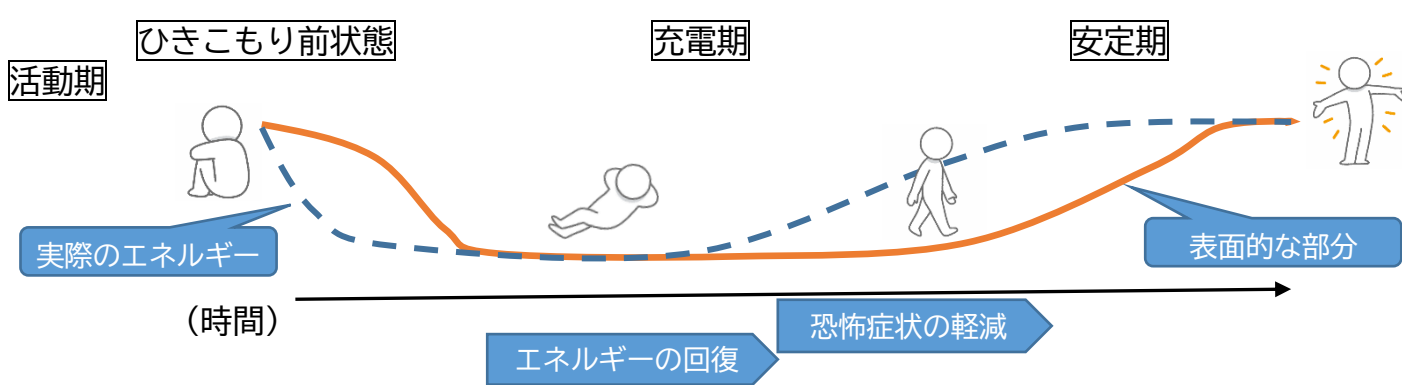
## 相談の中断につながりやすい支援者の言葉

| 支援者                   | 保護者・家族                |
|-----------------------|-----------------------|
| 「本人を連れてこなければ、支援できません」 | … 「どうやって連れてくればいいのか!?」 |
| 「何かあったらまた連絡してください」    | … 「何かって、何!?」          |
| 「本人が変わるのを待つしかない」      | … 「何もしないで、待てばいいのか!?」  |
| 「(ひきこもったのは) 家族の責任です」  | … 「どうやって責任をとればいいのか!?」 |
| 「大変ですね」               | … 「で、どうすればいいのか!?」     |



知らず知らずのうちに保護者の方に、似たような言葉かけをしてしまってはいませんか？学校に行けないことや部屋を出られない状態をどうにかしたいと感じているのは、当事者であり、一番近くで支援している保護者です。正論や他人事のような傾聴では、良好な関係は築けません。

## ひきこもりの回復過程



不登校支援において、「明日は登校します。」といった意欲的な発言から一転し、翌朝には欠席連絡が入るといった**子どものギャップ**を感じたことはないでしょうか。上図のように、エネルギーの回復と表面的な行動の**部分にずれがある**ことを知っておくことは、不登校支援においても支援者が「あせらない」、「待つ」、「見守る」ことにつながっていきます。